

全校集会 学校長の話（2026年4月21日）

- おはようございます。
- 新年度が始まって、ちょうど2週間がたとうとしています。1年生はそろそろ、この学校の雰囲気分かかってきたころでしょうか。2・3年生のみなさんも、新しいクラスには慣れましたか。クラスが変わると、最初はどうしても緊張します。前のクラスでは自然にできていたことが、うまくいかなくなったりもする。それは当たり前のことです。だからこそ、学級という場が、一人ひとりにとって「ここにいていい」と感じられる場であってほしい。卒業式の式辞でも話しましたが、心理的安全性です。安心して自分を出せる場所。失敗しても笑われない。「助けて」と言える空気。そういうクラスを、みんなで作ってほしいと思っています。
- さて、きょうはもう一つ、どうしても話しておきたいことがあります。先日、京都府の南丹市で、小学5年生の男の子が亡くなるという、本当になかない事件がありました。テレビやネットのニュースで見た人も多いと思います。この事件のことを考えると、胸がつぶれるような気持ちになります。ただ、きょう僕が話したいのは、事件そのものではありません。この事件をめぐる、ネット上で何が起こったか、です。
- 事件が報じられた直後から、SNS上に、容疑者についての根拠のないうわさが広まりました。そのなかでも特に多かったのが、「犯人は日本人ではない」「外国籍だ」というデマ。これに対して、捜査関係者は明確に否定しています。なぜ、こういうデマが広がるのか。犯罪心理学の専門家は、「子どもの失踪という事案で感情が揺り動かされた人たちが、断片的な情報を埋めるためにデマに飛びついてしまった」と指摘しています。
- でも僕が気になったのは、もっと根っこの部分です。なぜ「外国籍だ」というデマだったのか。凶悪な事件が起きたとき、「犯人は外国人に違いない」と決めつけたがる人がいる。なぜかという、「日本人がこんなことをするはずがない」と思いたいからです。言い方を変えると、怒りや不安のぶつけ先として、「外国人」という属性が使われている。これは、昨年9月1日の全校集会でも話しました。関東大震災のときの「朝鮮人が井戸に毒を入れた」というデマ。100年以上前のことですが、やっていることの構造は、今も変わっていません。
- もう一つ。この事件では、容疑者が養父だったことから、「養父だから悪い」「再婚した家庭はこうなる」というような書き込みも多く見られました。なぜ？ 子どもがいたら、再婚したらいけないということですか。僕の友だちにも再婚して、相手の連れ子を、自分の子どもと同じように、めちゃくちゃかわいがっている人がいます。ほとんどの家庭がそうです。今後、家族の形はもっと多様になっていく。その中で、「養父だから」「再婚家庭だから」とひとくくりにして決めつけることは、そういう家庭で暮らしている子どもたちを、どれだけ傷つけるか。想像してほしいんです。
- こんなネットの空気を見ていると、不安になります。こんな世の中でいいのかと。でも、少なくとも僕は、北稜中の皆さんには、こういう人にはなってほしくない。根拠のないうわさをSNSで広げる人。特定の属性を持つ人を「あいつらは」とひとくくりにして見下す人。そういう人には、なってほしくないんです。
- ここで、ひとつ思い出したことがあります。去年の12月、PTAの人権講演会に来てくださった、玉木幸則さんの話です。覚えている人もいられるかもしれません。玉木さんはこんな話をされていました。
- 「マイノリティ」と聞くと、「自分とは違う、どこか特別な人たち」と考えがちやと。でも、「分け方」を変えたら、みんなすぐマイノリティになれる。日本の中の大阪府民。その中の大阪市民。その中の北区。その中の北稜中学校関係者。そして、その講演を聞きに来ている人たち。条件を重ねていったら、「皆さんは超マイノリティです。おめでとうございます」と。会場が笑いに包まれましたね。
- つまり、マジョリティかマイノリティかなんて、枠の切り取り方で、いくらでも入れ替わる。「自分は多数派だから安全だ」なんて、思い込みすぎないんです。だからこそ、誰かを属性で決めつけて攻撃する言葉は、いつか自分にも返ってくる。「外国人だから」「養父だから」「〇〇だから」。そうやってレッテルを貼る行為は、回り回って、自分や自分の大切な人が傷つけられる社会をつくっていくことになる。北稜中は、そうじゃない学校でありたい。見た目や属性で人を判断しない。根拠のないうわさを広げない。目の前の一人を、ちゃんと一人の人間として見る。それが、僕がずっと言い続けてきた「隣にいる人を大切にする」ということの、もう一つの意味です。
- 新しいクラスで、新しい仲間と過ごす毎日が始まっています。その毎日の中で、誰かを属性で見るのではなく、「この人はどんな人なんだろう」と関わってほしい。以上です。